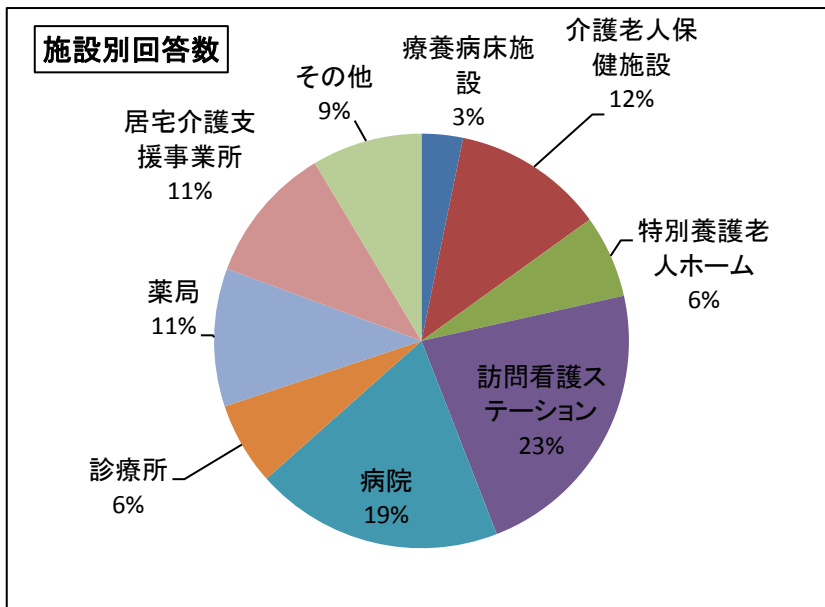


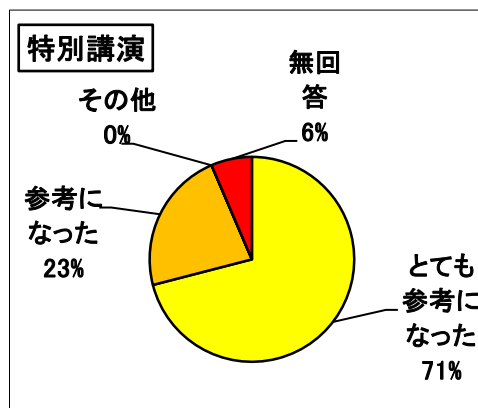
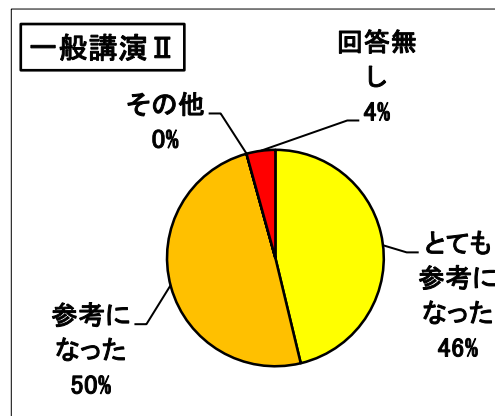
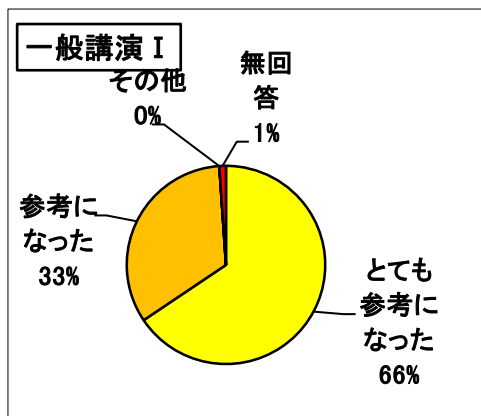
第7回慢性期医療を考える会 ～アンケート結果～

参加者数 129名
 回答者数 93名（回収率 72.1%）

1 貴院、貴施設について教えてください。



2 本日の講演について、それぞれご感想をお聞かせ下さい。



<講演総評>

- 「まず、自分の地域の在宅医療の現状を把握し、地域包括ケアの中老健の役割を明確にしていきたいと強く思いなおすことができた」
- 「在宅医療は家族にとって不安が多くあるように思っているが、心の満足度を考えた時そこに大きな意味があると考えさせられた」
- 「医療従事者の一人として今日の講演から『自分の終末』を考えさせられた。医療従事者たちが本当のところどのようにしていきたいかを聞くことが必要」
- 「看取りをする機会が多く、どのようにしたら本人・家族が納得できる最期を迎えられるかいつも考えている。スピリチュアルペイン、魂の回復についてとても為になった」
- 「家族や本人に寄り添う難しさを感じている。講演を聞いてこれから少しずつ学びたいと思った」
- 「現在の最新のリハビリテーション状況を知ることができて勉強になった」
- 「早期からの意思決定支援の必要性を再認識した」
- 「高齢化社会における医療、地域包括ケア等チームケアの中での薬剤師の関わりを考えた」
- 「自宅で看取ることによる不安や恐怖を感じるご家族が多く、24時間対応できる在宅医、緩和ケアを知っている医師がいると心強く、自宅で最期を迎えたいという思いを叶えることができる」

<今後の講演内容について>

- ・安楽死
- ・施設での看取り
- ・地域包括ケアシステムをどのように構築していくか、静岡県での取り組みについて
- ・訪問看護やヘルパーの役割
- ・終末期のメンタルコントロール
- ・在宅での緩和医療ケア、在宅看取りの症例
- ・在宅リハビリテーション
- ・在宅医療の具体的な事例
- ・在宅医療とリビングウィル
- ・孤独死
- ・コミュニティーオーガニゼーション
- ・透析医療
- ・高齢者の低栄養
- ・サルコペニア(筋肉の減少)
- ・高齢者の急性期医療システム

<現在の問題点、病院・行政に対する意見>

◆問題点

- 「訪問看護ステーションの人材が充実していない」
- 「レスパイト(ケアを代替する家族支援サービス)が不十分」
- 「身寄りの無い方の看取り体制が整っていない」
- 「地域包括医療に関わるキーパーソンが医療なのか介護なのかが不明」

◆国・地方行政機関への意見

- 「介護保険でできることに限界がある。個人に合った医療と介護が受けられるようにしてほしい」
- 「長期間医療を受け続けることは金銭的負担が大きい。行政による指導・対策が必要」
- 「介護の現場におけるマンパワー不足の解消と、職員の給料、介護関係者の社会的立場の向上」
- 「患者の為に在宅医療を目指す体制づくり」

◆連携体制についての意見

- 「入院中のインフォームド・コンセントで在宅看取りを勧めてほしい」
- 「病院医師に在宅を知ってほしい」
- 「医療と介護の連携をもっと進めることが必要」
- 「がん告知の在り方を考えてほしい」